

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和7年2月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100500
法人名	有限会社 友星メディカル
事業所名	グループホーム 谷山中央
所在地	鹿児島県鹿児島市谷山中央二丁目609番地1 (電話) 099-268-1765
自己評価作成日	令和7年1月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和7年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内の明るい雰囲気と毎日の手作りの食事が特色。支援の方向性としてご利用者の残存機能を生かした自立支援を心掛け、必要以上に介入をしないよう日々意識し、GHで暮らしている利用者方の可能な限り自立した生活のお邪魔にならないことを主として生活支援に取り組んでいます。感染症対策を講じながらも個別に外出等ご相談受けております。行事としても施設運動会、秋祭り、買い物支援等行って利用者方に喜んで頂いております。毎日買い出しに出ることで季節の旬の食材を様々な形で提供できており、内容多彩な食卓となっており好評を得ております。緊急時には連携機関である田上記念病院のホットライン対応、また医療連携行っている訪問看護ステーションと連携、指示を仰ぐ体制ができており、訪問看護は週1回の訪問協力中。ご利用者の体調不良時にはご家族等も協力いただきながら医療ニーズへの迅速な初期対応支援が円滑にできてます。ご家族方には入居時から懇切丁寧にGHは利用者方にとって自宅であることをご理解いただけるよう努めており、自宅に家族の出入りが無いことは物悲しいことであるもご理解いただくなかで、GHとご利用者への関わる機会を意識いただけるようにコロナ禍のなかにあっても日々努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、周辺に医療機関・スーパーマーケット・飲食店・支所等があり、にぎやかな場所にある。幹線道路からも近いし交通の便も良く、家族や友人等の面会が多い。
- ・感染症等に配慮しながら、馴染みの関係が維持できるように玄関で対面での面会を行っている。
- ・食事については、ほぼ毎日買い物に行き旬の食材を使って手づくりの食事で、職員も利用者と同じものを食して、食事が楽しみとなっている。
- ・地域の方々との交流があり、地域の広報誌に事業所の案内等を掲載してもらっている。
- ・地域関係者の運営推進会議への参加もある。
- ・ボランティアや実習生の受け入れもコロナ感染状況を把握しながら実施している。
- ・職員は明るく、管理者は職員の個人的な相談にも快く応じていて職員からの信頼もあつい。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ．理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り後朝礼にて1F2F勤務者全員で理念を唱和している。日頃より理念の唱和を通して理念共有、ケアに反映させられるよう努めている	理念はフロアに掲示し、パンフレットに掲載している。毎朝の申し送り時に唱和している。各自で振り返り、ケアの実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域行事、地域交流も中止になっていたが、近隣の公園へ行事での外出支援行ったり、近隣を散歩することで地域を意識した取り組み行っている	町内会に加入し、回覧板で地域の情報を得ている。高校生の実習受け入れをしている。敷地内を散歩しながら地域の方とのあいさつ交流を行っている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	見学者やご家族からの相談に随時応じる形で入居、非入居問わず認知症等もしくは施設検討などの情報提供などを協力することで地域貢献に努めている			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームから広報誌・お便りを家族に発送し行事の様子やホームの近況等を報告している。感染症を対策を講じつつ、運営推進会議を開催しており様々意見交換を行っている	2ヶ月ごとに会議を開催し、コロナ感染状況により書面の時もある。利用者状況・活動状況・ヒヤリハット・事故等の報告をしている。町内会活動を再開している事や事業所でInstagramを開設している事等の紹介をしてサービス向上に活かしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市役所、生活保護課担当等必要時連携し、相談を兼ねてご指導いただいたり、困難時を解決にむけて解決できるよう努めている。介護保険上の手続き等なども施設として支援行っており、窓口とも連携している	行政の窓口に出向いて書類を提出したり、相談をしたりしている。生活保護者へ保護課から年1回訪問がある。市主催の研修はオンラインで参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	各職員が身体拘束の弊害を理解したうえで身体拘束のないケアに取り組んでいる。	マニュアルがある。身体適正化委員会が1階は毎月、2階は3ヶ月毎にユニットで委員会を実施している。内部研修は年3回実施し言葉遣い等については特に研鑽している。玄関の施錠はしていない。外出希望者は、職員と一緒に散歩している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について各職員が内部研修などにて学び、虐待をしないという意識をもって虐待防止に努め、日々ケアに努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	生活保護、また保佐人などの制度活用などGHでの関わりのある権利擁護の事例のなかで、権利擁護制度や理念などの情報を共有している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	常に利用者の立場にたち十分な説明をしている。不安や疑問点は時間をとって丁寧に説明している。その中で不足が生じていないか個々の立場に立って確認しながら健康状態など家族に定期的に報告行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	感染対策を講じながらはあるがご家族の訪問時や必要時にはお手紙などで近況報告などを共有しながら様々な要望(昨今では面会の要望多い)に柔軟に個別対応図っている。	利用者には日々の関わりの中で意見を聞いている。家族は、面会時や手紙・電話・2ヶ月に1回利用者の写真を載せて、職員や管理者が一言添えて便りを家族へ送付し意見を聞いて対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の提案や意見などは各階ミーティングの際に十分伺うように努め、反映するように心掛けている。個別での職員の相談も適時対応行っている	月1回のミーティングや各ユニットごとの会議や申し送り時にも意見を聞いたり、日々のケアの折にも話を聞き、職員の要望でシャワーチェア等を購入した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人とも協働しながら働きやすい職場環境作りに努めている。給与水準や有給消化なども時代にあわせて法人と可能な限り時代に適応できるよう努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の専門性の把握、経験や能力などを把握しながら一律の教育ではなく、各個人の状況にあわせて個性を生かして成長頂ける様配慮しつつ支援している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のGHと相互交流のなかで様々な情報の交換ができています。推進会議にて長寿あんしん相談センターや民生員、地域議員等とも意見交換できている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族に利用開始にあたり十分な説明行い、本人、ご家族が納得のいく形での入居にいたるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	それぞれの人生観を支える思いでお互いが共同生活を行いながら、和やかな雰囲気の中で率直なご意見いただけるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GHはご家族の協力のもと利用者が自宅として生活していく場であることを懇意に説明行い、面会、訪問へのご理解・ご協力へとつなげている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個別の宗教、家族間、友達などの生活歴などの情報から広く考慮したなかでGHにて本人らしい『在宅』生活で在るよう支援に努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気のあう利用者同士や関係性などを考慮しながら共有スペースでの席も配置行ったり、職員が間に入ったほうがいい場面には適時介入もちつつ相互の良好な関係性への配慮、支援に日々職員間で情報共有しながら努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人にとって身近な方々はいつでも気軽に来訪いただける様努めている。室内での面会はまだまだであるが面会スペースにて対面面会支援行っている	家族は玄関先で対面での面会を行っている。家族以外の面会者がいる時は、家族の了解をとってから実施している。電話・手紙・はがき等の支援や取次ぎをしている。定期的に理美容師の訪問がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気のあう利用者同士や関係性などを考慮しながら共有スペースでも関係性の変化など時には席をかえ環境変化したり、職員が間に入ったほうがいい場面には適時介入もちつつ相互の良好な関係性への配慮、支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、家族の意向にも配慮行いながら随時相談支援に努めている。利用後の相談も対応しており、切れ目のない相談対応行っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の希望や思いを傾聴し、意向に沿えるよう努めている。困難な場合には家族にも支援をお願いし、本人と家族の意向や希望が把握されるように職員で共有している	お茶の時間等のゆっくりしている時に思いや意向を聞く事が多い。意思疎通の困難な人は生活歴や態度・表情・家族からの思いを聴き、支援経過やケース記録の内容等から職員が情報を共有し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、関係各位からも情報収集に努め、生活歴等の確認行うなかで本人の暮らしてきた環境や在宅環境に近い暮らしの提供ができるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の健康状態をよく観察し、できること、もっている残存機能に着目し自立支援に向けた取り組みを意識、行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の状態の観察を行い、小さな変化にも職員間で報告取り合い、連絡相談しながらカンファレンスし、その時々に応じて介護計画を作成している	本人・家族の要望や意見を聞き、主治医の意見を参考として職員間で話し合い介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月ごとに、見直しも6ヶ月ごとに実施している。状況の変化により必要時はその都度見直している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の意見を集め、ケアの方向性がケアマネの画一的なものとならないように日々利用者方の状態の情報把握を職員方と一緒に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	トップダウンではなく新旧職員方からの積極的なアプローチを大事にしながらバランスをもって計画に反映していくように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握と有効的な活用方法を随時考慮している。地域実情に応じての地域の一員としての暮らしが確保できるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診支援、訪問診療の往診にも対応している。急変時にも対応に取り組んでいる。家族にも支援求めていくこともあるがその限りではなく柔軟に支援している	入所前のかかりつけ医や協力医療機関の受診に職員が同行している。看護師の週1回の訪問があり夜間はオンコール対応ができている。眼科受診は家族の支援である。夜間の緊急時は救急搬送を依頼している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中にとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の医療相談を受けて連携している。協力機関の田上記念病院の外来とも利用者の状況を報告、相談行い、早期受診対応、受け入れ対応の連携をスマートに執り行えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携機関との連携、また入院先となった病院との連携を図り、可能な限りGHにて生活継続できる形を求めている連携に努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人、家族も含めて重度化、終末期について説明し、かかりつけ医、家族、訪問看護等で協議し方針を共有している。	看取りの指針を基に契約時に説明して同意書をもらっている。重度化した時には主治医から家族へ説明をして、治療の必要性により医療機関を受診している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連携機関である田上記念病院のホットラインと訪問看護のオンコールを利用し夜間でも相談できるバックアップ体制ができている。マニュアル完備、また管理者への迅速な報告を周知し迅速な対応に動けるよう組織として取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練等にて消防隊とも連携している。食料備蓄も日常的な買い出しにて滞りなく備蓄がある。今後は地域との災害協力構築を図っていきたい	防災訓練を年3回、1回は地震、2回は火災訓練を実施している。自主訓練を昼間を想定して1回実施している。防災機器の定期点検は業者に依頼している。避難場所は1階の駐車場、2階の踊り場になっている。備蓄は水・米・缶詰・カップ麺等を3日分程度。カセットコンロ・懐中電灯等の準備もしている。事業継続計画（BCP）作成済で、3ヶ月ごとに見直しをしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	受容と傾聴を大事に各利用者様、一人一人の人格や性格、個人情報等を重視した認知症ケアに努めている	事業所独自で権利擁護等について年1回研修をしている。排泄や入浴時等の言葉かけや羞恥心に配慮している。入室時はノックをして了解を得ている。呼称はさん付けで呼んでいる。希望があれば同性介助に応じている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を尊重して、自己決定の難しい利用者に関してはそのご家族と話あいながら可能な限り本人の思いをくみ取るように支援に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	けして押し付けるケアになることのないように本人のペースに重きをおいて、見守り重視のケアに努めている。また在宅であること意識し必要以上の介入は避けるように意識して支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	日常的に使用するコップなど、小さな持ち物などから彩や個性がみられるよう支援に努めている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の会話より個々の好きなものを把握したり、可能な限り献立に取り入れるようにしている	職員が献立や調理をしている。食材は近くのスーパーマーケットへ出かけて季節の旬のもので調理している。行事食は手作り、誕生日食は、食べたい物を利用者に聞いて提供している。もやしの根とり等を利用者と一緒に行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年齢や体調不良なども考慮しながら日々必要量の確保ができているから細かく確認行っている。また1日の総体としての食事量に着目しながら無理強いしない食事支援も意識行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	可能な限り本人の自力による支援に努め、介入は少なくするよう意識行っている。個々に応じて舌ブラシ使用、介助も行いながら清潔な口腔ケアにと取り組んでいる。訪問歯科医とも連携相談行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自分で排泄できる人の見守りと介助が必要な人の排泄を把握しチェック行っている。できるだけ自立にむけ取り組んでいる。できるだけ自然な排泄ができるよう食材を工夫するなどしている	排泄チェック表から排泄パターンを把握して、日中はトイレの誘導や声掛けをしてトイレでの排泄を促している。リハビリパンツと尿取りパットの使用者が多い。夜間時ポータブルトイレ使用者もいる。排便についても看護師等と相談して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	夜勤帯、日勤帯が共に日々のバイタル表にて確認有無を申し送りし、便の状況などは主治医へと受診時に細かく報告行い、内服薬調整も積極的に執り行い、変化する状況に対応行っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入居者本位で入浴の声掛けや本人の希望にあわせて支援を行うようにしている。拒否がみられることもほとんどなく支援できている	週3回午前中に実施している。入浴の順番を気にする場合は先に声掛けをしている。拒否のある人は、時間をおいて声をかけたり、2人介助の人もある。1週間に3回は入浴できるように工夫している。皮膚の乾燥予防の為に入浴後は保湿剤を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況、体調にあわせて座位や臥床など適切な介入を行っている。不眠がみられる際にはお茶付き添いや声掛けで、本人に安心して入眠いただけるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服時には必ず日付、朝晩の確認、本人の名前の読み上げ行っからの服薬支援行っている。状態悪化の際にも内服薬の副作用疑い確認も行っ、内服薬への理解への意識つけできている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の挨拶当番、洗濯物干し、野菜の皮むき、台ふきなど各人の生活歴や能力にあった家事参加促すことで生活に張りとし小さな役割ができるよう支援に努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	季節の変化に応じて天候やその時の入居者の体調を把握しできるだけ希望にそった外出、日光浴など外にでる支援に努めている。気候の良い時期には行事としてお花見散策やコスモス見学、ドライブ等支援し、施設日常として散歩、外気浴等支援している	天気の良い日は敷地内の散歩をしたり、外に出て外気浴を楽しんだりしている。定期の受診後にドライブしている。年間行事計画があり、近くの桜並木を見物に行ったりコスモスの花見に出かけたりしている。法事等に家族の支援で出かけている人もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の管理能力と家族の意向も確認行いながら可能な限りの自己管理支援に考慮行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ハガキが届いたら本人にお渡しし、読んでいただき、すべて保存している。電話希望が発生したらご家族への電話連絡～本人との会話支援行っている。携帯電話使用支援も行っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	担当による季節の飾りつけ、季節を感じる空間作りにつとめており、視覚的に季節を感じていただけるように努めている。その模様はInstagramにでも掲載中。簡易的な職員の作成物を飾ったり、一緒に飾ったりも行っている。感染対策継続のため適温保ちながらの換気も行っている	空気清浄機や加湿器・エアコンデyshoナー等で温度湿度調整をし、時間で窓を開けて換気をしている。遮光カーテンで光りの調整をしている。手作りの季節ごとの作品や折り紙・ぬり絵等をホールに掲示して季節感を楽しんでいる。テレビ・ソファ・観葉植物等を置いて居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間での席順は随時利用者方の関係性に最大限に考慮し、適時席変更も取り入れている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方らしく使い慣れた品物を持ち込んでいただき、本人が安心できる居住空間作りに努めている。また換気に気をつけて過ごしていただくよう心掛けている	ベッド・エアコン・洗面台・タンス等の設置がある。持ち込みとして寝具類・テレビ・ソファ・家族写真・時計・観葉植物等の馴染みの物を身近に置くことで、落ち着いた生活ができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレも本人の動線を利用した箇所を利用して本人が迷わないように考慮した誘導を行っている		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない